

令和3年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

柏原小学校

1. 本校の教育目標

明るく 正しく たくましく

- 明るく、心豊かな子
- 正しく、実践力のある子
- たくましく、健康な子

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

(2) 特例の適用期間

平成28年4月1日～令和11年3月31日

(3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、(特別支援学級 単独でも実施)

(4) 地域の特徴を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。

それらを解決するため、前述した地域性や学校の特徴、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児 童	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書の作品づくりでは、どんな文字を書こうか、どう表現しようかなど、想像をふくらませながら書くのが楽しかった。 ・ 書道のおかげで、墨で書く字がきれいになった。姿勢もよくなった。字を書くのは難しいけど、一生懸命書いたので楽しかった。 ・ 3学期に1年間の作品を全て見直した。今の作品を見ると、始筆の筆使いやバランスの取り方など、成長したなど思った。
教 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書の作品づくりでは、一人一台端末を利用して、見本となる作品を提示したり、子ども自身が手本となる字を探したりするなど、子ども一人でも学べるように手立てを工夫した。 ・ 書道科講師と事前に学習課題や役割分担等について打ち合わせをすることで、学習を充実させることができた。 ・ 「書写の学習」と「書を生かした作品づくり」をバランスよく計画することで、書の楽しさや達成感を味わわせることができた。
保 護 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年の水習字では、毛筆の楽しさを味わった。3年生から毛筆学習が始まり、筆を使って字を美しく書こうとしている。 ・ 古代の文字を毛筆で表したり、大きな筆で大きな紙に字を書いたりするなどの書に親しむ活動を、これからも続けてほしい。 ・ 手書きの手紙をもらうとうれしい。硬筆、毛筆の学習を大切にしてほしい。

(3) 学校関係者評価

- ・ パソコンで文字を書くことが増えているが、毛筆は文字本来のため、はらいなどが意識できるので、学ぶ必要がある。
- ・ 廊下の掲示を見ると、以前に比べて上達しているのがわかる。時間をかけて集中して書いている様子が伝わってくる。
- ・ 書道は自己表現の一つ。字は体を表す。パソコンでは書けない「自分の字」を書くという体験が、10年後、20年後に生き続けると思う。

(4) 課題

- ・ 毛筆学習において、基本的な筆使いの指導に不安をもつ職員がいる。全職員で研修を行いたい。
- ・ 書の取組について、授業参観やホームページ等を通して発信していく。